

## ユスト高山右近の列聖運動 シンボルマークの解説

右近の列聖運動のシンボルマークは、十字架に高山家の家紋七曜星を重ね、その背後に三つの輪が配されています。右近の列聖運動は、わたしたちが右近の模範に倣い、混迷する世界にあって、十字架のキリストに希望をおいて生き、全世界の人々に、右近の信仰の喜びを伝えることを目指しています。

### ◆七曜星

家紋の七曜星は、高山右近が生まれ育った家を指し、右近の信仰をはぐくんだ基礎を表しています。七星は、洗礼、聖体、ゆるし、堅信、婚姻、叙階、病者の塗油の「七つの秘跡」と重なります。それはまた、右近を導いた「霊の力」(ルカ 4・14)、聖霊の七つのたまもの(上智、聡明、賢慮、勇気、知識、孝愛、主への畏敬)のシンボルでもあります。十字架から発して七曜星を包む緑は、永遠のいのちへの希望を意味しています。

### ◆十字架

七曜星の背後に貫かれた十字架は、人間のために徹底的に仕えたキリストのしるしであり、キリストに倣い、神と人に仕えた右近の人生のシンボルです。

右近の洗礼名「ユスト」は、「義の人」を意味します。神の義を生きようと、右近は、自分を人のために明け渡す生涯を貫きました。十字架の縦木は、右近が祈りによって深めた「神との交わり」を表し、横木は、どのような境遇にあっても、神を第一とし、家族・共同体・貧しい人々に仕えた、右近の「人々との交わり」を表します。

### ◆三つの輪

七曜星と十字架の背後で輝く三つの輪は、三位一体の神と人々とのかかわりの中で、揺るがない信仰へと導かれ、広がっていった右近の生涯を示します。家族と領民と盟友たち、とりわけ頼りなく心細く生きる人にかかわり寄り添う右近は、各地の教会共同体、そして最後の追放によりアジアの共同体とかかわるために「出向いて行く」(教皇フランシスコ使徒的勧告『福音の喜び』24)人となりました。

輪の内側からの水色と濃い青は右近の聖性の深まりを、外側の朱色は右近の深い祈りといのちをささげるまでのキリストへの燃える愛を表しています。400年前の日本の教会に「世の光」として誕生した右近の輝きは、今日の教会のわたしたちを照らしています。